

Vol. 1

vmware
vCloud® Air™ Network

クラウドで進化する 仮想化基盤

クラウドで進化する仮想化基盤 vol.1

クラウド

コスト削減

仮想化基盤-aaS-という新しい選択肢

多くの企業ITで、パブリッククラウドの利用が始まっています。パブリッククラウドの利点としては以下のような事が挙げられます。

- すぐに使い始められるし、すぐにやめられる。
- 使った分だけしか料金が発生しない。
- 料金がとても良心的。

かつては複数の専門家が大変な手間をかけなければ準備できなかったコンピューティングリソースをまるで電話でもかけるように利用出来るようになった事は革命的な事です。

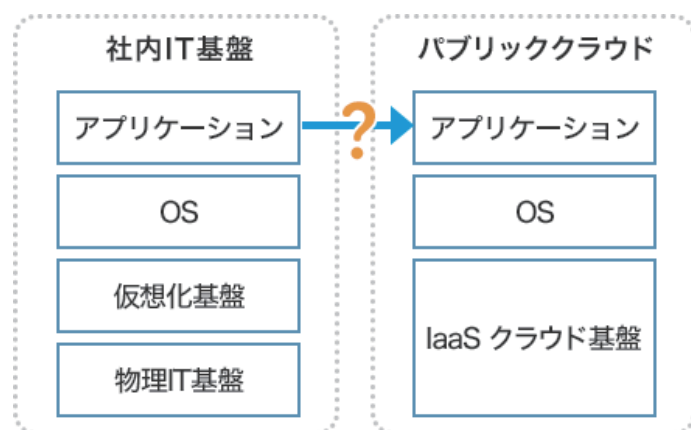
新しく作るアプリケーションの基盤として、まず第一に各種パブリッククラウドの利用を検討する事に大きな議論の余地はないでしょう。実際の所、これまでの急激なパブリッククラウドビジネスの拡大は、Netflix など新しいデジタルサービスプロバイダーによる利用の拡大に支えられてきました。

一方で、すでにこれまで長年に渡って投資をしてきたIT基盤を、パブリッククラウドの利点を取り入れながら、どのように進化させていくべきか、という事についてはまだまだプラクティスが確立しているとは言えません。

既存のIT資産の移行

長年投資と改修を続けてきたシステムの多くは最新のアプリケーションアーキテクチャを持っておらず、パブリッククラウドが想定するアプリケーション要件を満たす形でクラウドへ移行することは一筋縄ではいきません。

例えば、近頃のWebシステムではロードバランサー配下にステートレスなWebサーバーを複数配置するなど、システムの高可用性をアプリケーションのアーキテクチャで担保していますが、レガシーシステムの多くはそうした高可用性をクラスタリングなどIT基盤が提供する機能を利用して実現しています。可用性を維持した形でパブリッククラウドへ移行するためにはステートレス化、分散処理への対応など、大規模なアプリケーションの改修が必要になります。



アプリケーションに手を加えないで既存のIT資産をパブリッククラウドへ移行する方法はないのでしょうか？すでに幅広く社内ITインフラとして活用されている仮想化基盤を基盤ごとパブリッククラウドへ移行する方法はないのでしょうか？

実は仮想化基盤を間に挟む事で、既存のIT資産をアプリケーションに手を加える事なくパブリッククラウドへ移行する事ができます。

パブリッククラウドと仮想化基盤のちょうどいい組み合わせを理解するために、仮想化基盤の特性を今一度おさらいしてみましょう。

仮想化基盤とパブリッククラウドのちょうど良い関係

今の"クラウドファースト"のトレンドに先立つ形で、10年ほど前から"仮想化ファースト"のトレンドがありました。パブリッククラウドも全て何らかの仮想化基盤を利用して作られています。仮想化基盤の利点は以下のようなものが挙げられます。

- 物理サーバーの台数を削減できる
- 20台以上の物理サーバーを1台に集約できるケースも稀ではありません
- 物理サーバーの数が減ることで、場所代、電気代、運用工数、全て同じ割合(1/20!)で削減されます
- パブリッククラウドの価格競争力は集約率を(できる限りアプリケーションのパフォーマンスに影響を与えない形で)最大限に高めることで実現されています
- サーバを丸ごとバックアップしたり移動したりできる
- 高可用性、自動負荷分散、などアプリケーションのサービスレベルを上げる仕組みをアプリケーションに変更を加えないで基盤側で提供できる

パブリッククラウドがITの提供方法の革命だったのに対し、仮想化はIT基盤の実現方法の革命だったといえるでしょう。パブリッククラウドの効率性や利便性は仮想化技術を最大限に活用することで実現されています。

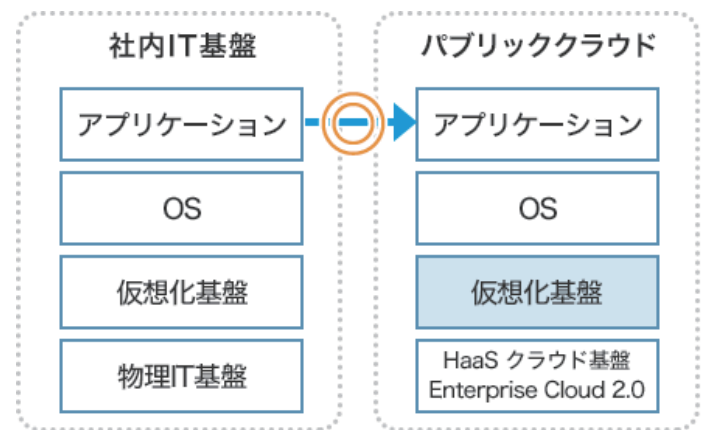
物理サーバーから仮想サーバーへの移行(P2V)は、アプリケーションに変更を加えることなく実施できます。仮想化がもたらすコスト削減を享受するため、過去10年以上にわたり業界が取り組んできたP2Vのプラクティスは十分に成熟化しており、大きなリスクなく実施できます。

仮想化基盤をパブリッククラウド上で展開する事で、アプリケーションに手を加える事なく既存のIT資産をパブリッククラウドへ移行する事ができます。

NTT Communicationsの機能拡張したEnterprise CloudサービスではIT基盤のハードウェアがクラウドサービスとして提供されており、パブリッククラウド上に慣れ親しんだ仮想化基盤を構築することが可能になっています。冒頭に挙げた3つのパブリッククラウドの利点をそのままに、アプリケーションを変更を加えることなしにクラウドへ移行することが可能となりました。

こうした「持たない仮想化」あるいは「仮想化基盤-aaS」はまだ広くは知られてはいませんが、既存のIT資産の無理ないクラウド移行のデファクトスタンダードになる可能性があると考えています。

アプリケーションのクラウド移行を促進し、無理なく運用できるハイブリッドクラウドを実現する仮想化基盤-aaSを是非一度ご検討ください



サービス紹介

» Enterprise Cloud

NTT Comの「Enterprise Cloud」は、共有型の仮想サーバーのほか、占有型の物理サーバーも提供しているため、「持たない仮想化」、「仮想化基盤-aaS」のためのプラットフォームとして活用することが可能です。

クラウド業務で課題をお持ちのお客さま

フリーダイヤル/ナビダイヤル回線から便利な機能まで、お客さまニーズに合わせた最適なソリューションをご提案いたします。



0120-106107

受付 | 9:30 ~ 17:00
時間 | (土日祝日を除く)